

平成 30 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(国語)

□平成 29 年度入試との問題・設問構成比較

見た目の 4 大問構成は変わらず。配点や内容に細かいマイナーチェンジが。

大問 1 が小説、大問 2 が説明文、大問 3 に古典、大問 4 に資料読み取りからの作文。昨年と変わらない構成となりました。ただし、漢字が 4 問に減り、「熟語の構成」という文法要素の強い問題が出ています。会話文を埋める形式は続けて出題されており、作文の文字数が 250 語、配点が 1 点増加されました。作文に手が出せるかが 1 つのポイントです。

□平成 29 年度入試との難易度比較

難易度は昨年並みも、記述力の低い受験生には難問。

小説の題材が「三島由紀夫」の文章で、全体的に文章が長く、また現在の言い回しとは違ったことばなどもあり、読むだけで苦しいです。文章を読み取って人物像を読み取る問題が今回のトピックでしょうか。説明文は言語系の問題が継続して出題されています。論の進め方についての問題が出てきます。全体的に、「自分の考えを書く」という要素が強い問題なので、難易度は昨年並みではありますが、平均点は昨年の 23.9 点よりもやや下がると考えられます。

□平成 31 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

毎日なにかを「書く」訓練。

大問 1 にある「問題文から登場人物の人物像を考える」問題、大問 2 にある「問題文の主張をまとめる」問題、大問 4 の「作文」で、配点の 4 割を占めます。資料を見てわかること・自分の考えを書く訓練は、普段からきちんと積んでおきます。これは、どの教科のどの単元よりも時間がかかります。ここから逃げてしまうと、国語の点数は取れません。少ない時間でもいいので、毎日なにか「書く」訓練をして、まずは記述の苦手意識をなくすことから始めましょう。

平成 30 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(社会)

□平成 29 年度入試との問題・設問構成比較

4 大問構成は変わらず。相変わらず記述がほとんど。

大問 1 が世界地理を中心とした問題、大問 2 が全国支配に関する歴史の問題、大問 3 に経済系の公民の問題、大問 4 に地域のつながりに関する総合問題の 4 題構成。昨年とほとんど変わらない問題構成になりました。相変わらずグラフや資料が多く登場しますが、ここに「社会の用語」が入っており、「資料さえ読み取れば OK」という問題ではないことが特徴です。

□平成 29 年度入試との難易度比較

昨年よりもやや難易度は上がったか。

先ほども書いたとおり、知識さえあれば解けるわけではなく、とって資料さえ読めれば解けるものでもありません。「なぜそうなるのか」という理由について考える問題が多いです。資料を読み取り、覚えた知識を導き出し、それをうまく文章にする、という 3 段階の力が身につけていなければ、解答ができず、暗記系記述が多めであった昨年に比べるとさらに難しくなったと考えて良いでしょう。平均点は 19.3 点よりやや低下とみます。

□平成 31 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

用語暗記と用語の意味の確認。

ここ最近の傾向として、社会は「単純な用語暗記」では得点が取れない入試問題です。それ故、用語の暗記は軽視されがちです。しかしながら、選択問題にしても、記述問題にしても、その用語を暗記しておかなければ、使うことができず得点には至りません。毎年のように「記述問題だから難しい」という声を聞きますが、それは、記述をするのが難しいのではなく、「記述できるだけの道具がないから書きようがない」のです。まずは定期テスト、実力テスト、模擬試験のための基礎用語の暗記から始め、それから記述の対策や資料読み取りの訓練などをします。今は、とにかく基礎知識を入れ込むことです。

平成 30 年度広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(数学)

□平成 29 年度入試との問題・設問構成比較

大問構成が 7 題から 6 題に。総設問数は変わらず。

大問 1 が計算 3 問と小問集合 5 問。大問 2 が記号問題、グラフ問題、説明問題の 3 問。大問 3 が図形の活用系の問題、計算問題と記号問題、説明の問題の 3 本立てです。大問 4 は、表をもとにして考える関数・方程式の活用系問題です。大問 5 に関数のグラフ応用問題、大問 6 に図形の証明問題が出題されました。証明は、相似を用いた等しい角でした。

□平成 29 年度入試との難易度比較

昨年より「解きやすい」問題は減少。上位校は高得点勝負の可能性

昨年に引き続き少し形式が変わっています。小問集合に「引っかけやすい」問題が複数あり、また「用語の意味」を正しく使えないと解けない問題など、前半の問題でやや点数が伸びない可能性があります。一方で、活用型と呼ばれる大問 3・4 がやや読みやすくなり、ここで得点を伸ばせる受験生も多くいる可能性があります。大問 5・6 は、いわゆる進学校を狙う受験生にとってはさほど難しくない問題です。得意な生徒と苦手な生徒の差がくっきりと出るテストで、今年のアverage点は昨年の 23.1 点よりやや上昇する可能性が高いです。

□平成 31 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

計算と一問一答に足をすくわれない力。

説明の記述をする問題やグラフの問題、活用型の問題が採用されて以降、どうしても対策はそちらを意識したくなります。ただ、「1 年後にある入試」という視点から考えると、今やっておくことはそちらではなく、「大問 1・2 の対策」です。問題が難しくなればなるほど、基本的な問題をいかに落とさずに得点できるかがカギになります。計算問題はミスなくこなせますか？一問一答形式の単純な問題は確実に解答できますか？今すぐやっておくことは、そのレベル。応用問題は、それが終わってからで十分間に合うのです。

《参考》過去 5 年間の各教科平均点の推移

	H25	H26	H27	H28	H29
国語	32.1	31.5	28.8	25.6	23.9
社会	26.7	30.8	25.7	21.2	19.3
数学	23.7	27.3	30.1	24.8	23.1
理科	27.4	25.3	23.0	19.7	17.1
英語	21.3	24.4	24.0	23.7	15.9
合計	131.2	139.3	131.6	115.0	99.3

(各教科 50 点満点・合計 250 点満点での平均点)